

肥前浜宿

肥前浜宿は、浜川の河口につくられた郷町で、室町時代には町として成立していたと考えられます。江戸時代は長崎街道多良海道(多良往還)の宿場町として栄え、明治以降も酒造業や水産加工業に支えられ、豊かな町並みがつくりられました。人口も多く、江戸時代から「浜千軒」といわれ、藤津郡でも有数の町でした。400年ほど前の慶長年間には、スペインのドミニコ会が肥前で最初の教会を建てています。このような歴史を持つ町並みでは、今でも土蔵造りや茅葺町家が建ち並び、伝統的な景観を色濃く残しています。

これらの伝統的建物は、江戸時代後期から昭和初期にかけての建物が中心ですが、茅葺町家から洋館まで、バラエティに富んでいます。また肥前浜宿は江戸時代からそれぞれの地区に異なった業種の人々が住み分けしていた名残りで、今でも地区ごとに町の雰囲気異なります。そのため海道(往還)沿いや周辺には、商家町、漁師町、下町、田園など変化に富んだ風景が広がります。

平成18年4月、「浜庄津町浜金屋町」が港町・郷町として、「浜中町八本木宿」が醸造町として、2地区同時に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。さらに、町の種別では2地区とも全国初となる評価を受け、同年7月の官報告示を経て岐阜県白川郷など平成18年現在で全国78ヶ所のみしか選定されていない、貴重な伝統的町並みの仲間入りができました。

浜宿のイベント



花と酒まつり ●3月最終土・日曜日

桜の名所である臥竜ヶ岡公園の桜と新酒を結びつけ、花と酒まつりを開催しています。酒蔵見学や新酒の試飲、物産販売、大名行列などが行われます。



祇園まつり ●7月13日~15日

江戸時代から行われている浜町の伝統的なお祭りです。御神輿、獅子舞、面浮立などが披露されます。13日の夜には子供たちによる提灯行列も行われます。



鹿島花火大会 ●7月14日

浜町の漁港付近で約2000発の花火が打ち上げられ、大輪の花が真夏の夜空を彩ります。



酒蔵コンサート ●10月下旬

酒蔵通りの呉竹酒造(東蔵)を利用してコンサートや講演会、絵画展などが開催されています。



ふな市 ●1月19日

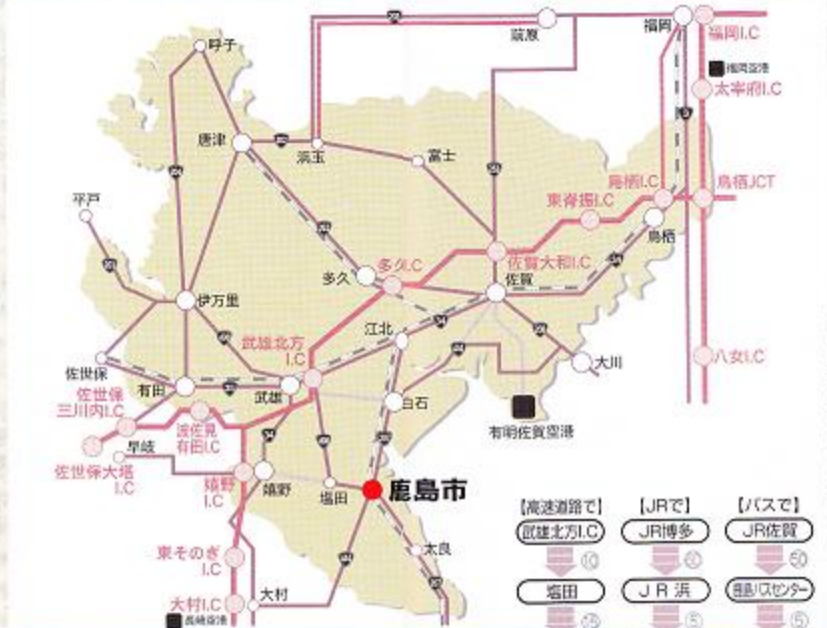
早朝、夜明け前から酒蔵通りを中心に、ふな市が立ち、威勢のよい声で通りが賑わいます。鹿島では昆布巻きしたふなを一旦夜煮詰めて「ふなんこくい」をつくる習わしになっており、商売繁盛を願って二十日正月に恵比寿様や大黒様にお供えする風習が今でも残っています。

浜宿の特産品

酒 7軒の酒屋があります。「富久千代酒造」「峰松酒造」「光武酒造」「飯盛酒造」「中島酒造」「水頭酒造」「呉竹酒造」

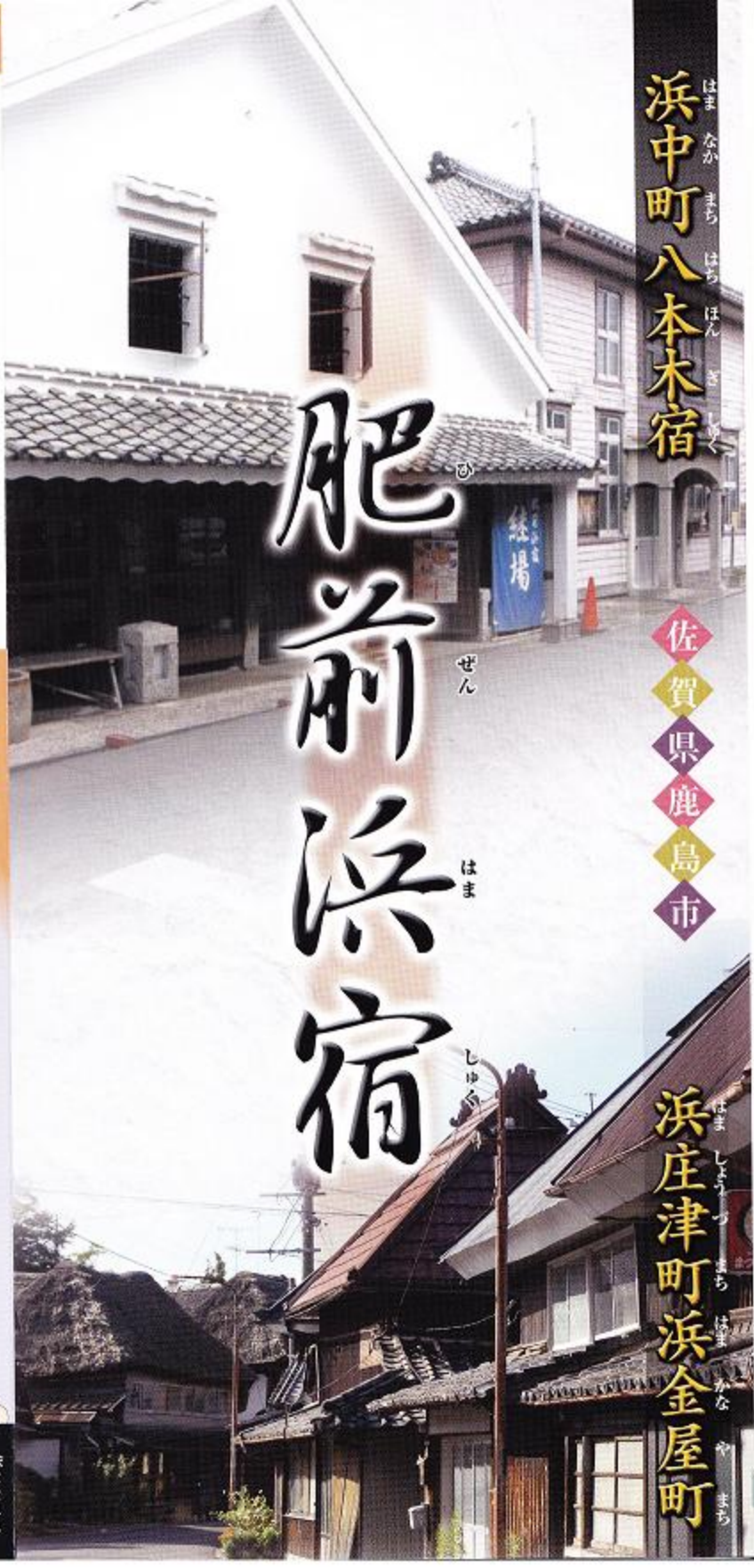
海産物 周辺には有明海の特産物を販売しているお店があり、海苔や貝柱の粕漬、カニ漬、ムツゴロウ・ウナギの蒲焼、ノリ、蒲鉾などを提供しています。お土産にご利用ください。

肥前浜宿までの交通機関



このパンフレットは、日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成事業で作成したものです。

【発行先】 NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会
 鹿島市商工観光課 0954-63-3412
 鹿島市観光協会 0954-62-3942
 浜公民館 0954-62-2634
 観光課(つばさ) 0954-63-8004



はまなかまち 八本木宿

佐賀県鹿島市

浜庄津町浜金屋町

肥前浜宿

肥前浜宿 まちなみ案内図

【浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区】〈通称:酒蔵通り〉

はまなかまちはちほんざしゅく
往還裏に土蔵造の大型酒蔵群が多く残っています。
往還沿いに白壁2階建ての瓦葺屋敷酒蔵町家が建ち並びます。
茅葺町家や昭和初期の真壁造町家もあります。

【オレンジ色の範囲】



祐徳神社↓



有明海

長崎街道多良海道
2時間コース
1時間コース

浜町の町並みは多良往還筋と浜川に沿って広がっており、その骨格は、往還筋を主軸とする街路、河川、そこから引き込まれた水路を構成要素として成立しています。

町並みの主軸をなす街路は、鹿島から多良へ向かう長崎街道脇往還で、浜新町・大村方・八宿・中町を通過、浜橋を渡り、鏡の手に折れて、南舟津・庄金に至ります。これらの町では住宅の奥行きが深く、両側町を形成しています。河港に面した北舟津・南舟津は、河岸に片側町、裏手に両側町が広がっており、ほかの町に比べて宅地の奥行きが浅くなっています。

浜川と町並みの関係は浜橋の上流と下流で大きく違います。上流では左岸の中町・八宿、右岸の野島とともに、往還筋に沿って広がり、川岸に背を向けながら水路が引き込まれているのに対し、下流では右岸の南舟津・庄金、左岸の北舟津とともに、町並みは河岸の通りに沿って広がっており、河岸に向かって開かれています。河港として機能した下流に対し、生活用水や産業用水を得るために使われた上流という河川の利用形態が、こうした町並み構成の違いをもたらしたと考えられます。

このような街路と水路が、伝統的町家建築とともに、魅力的な町並み空間をつくりあげています。

【浜庄津町浜金屋町伝統的建造物群保存地区】

はましょうづまちはまかな やまち
佐賀鍋島藩の外港として機能したといわれています。

【ピンク色の範囲】

茅葺町家が卓越する全国でも貴重な町並みです。



①若宮神社:
明暦3年(1494)当地方を支配していた有馬貴純は、同族で藤津を治め殿死した大村家系を尊んで、若宮神社にその霊を祀りました。創建年代は不明ですが、元禄5年(1692)鹿島藩主鍋島直高が、松岡神社の神輿の渡御先の「下の宮」にして、現在まで続いています。



②旧奥田(のりた)家住宅:
鹿島鍋島藩に仕えた旧武士の藩家から、兼田家の所有となりました。建築年代は19世紀初期と推定され、佐賀県に特徴的な「クド造り」の茅葺屋根と建物空間であり、鹿島市における在郷町(昔の地方都市)、かつ寄町に残る数少ない武家屋敷の遺構でもあります。



③稲場(つぎば)と酒蔵通り:
旅人の荷物を運送(中継)する問屋で、幕府が定めた人馬の料金が適用されました。この稲場は江戸時代の建物で、入口には馬をつないだ鉄の輪が残り、稲場の跡や人足が控えていた部屋もあります。稲場前の旧往還は、近年「酒蔵通り」と呼ばれ、往事の面影を残しています。



④泰智寺(たいちじ):
慶長14(1609)年、鍋島忠茂が鹿島鍋島藩を創設したのにあわせ鹿島鍋島家の菩提寺として北鹿島・常広村から移されました。初代藩主の遺骨と、第3代藩主以降の遺骨が埋葬されています。



⑤事比羅(ことひら)神社:
「城上の金毘羅さん」と呼ばれ、元は香川・琴平町の琴平大権現を勧請し、舟津地区の船乗りが厚く信仰していました。当時は、神社石段の下から参拝が直接できるように、船着場が造られていました。



⑥南舟津(みなみなつ)の町並み:
近世に栄えた河港の在郷町として、歴史をさかのぼる時間が体感できます。旧多良海道から入る小路と水路沿いには、伝統的な茅葺町家が建ち並び、全国に例を見ない町並みは大変貴重です。



⑦恵(恵比寿)三郎の祠:
この恵比寿は佐賀県でも最も古いものの一つで、貞享4年(1687)に造られています。当時は文字だけのものが多く、この恵比寿の祠も「夷三郎(えびすさぶろう)」と彫ってあります。



⑧庄金(しょうぎん)の町並み:
旧多良海道沿いの両側町として発展し、江戸時代には商人や船乗り、銀治屋等が住み、佐賀・長崎を結ぶ陸と海の交通拠点でもありました。往時の奥行きが深い土地形状を良く残し、連続する茅葺や桧瓦葺の町家を特色とします。